



しなぐりやしろおむすび

ビーズ

ドルフィン・メイトこども園プレゼント
 国立民族学博物館「コンミニ」

BEADS
 IN THE WORLD

RSKテレビ60周年
 39^{サンキュー}オリエント
 オリент美術館は平成31年4月に
 開館40周年を迎えます。



2018
 9.22[SAT] — 11.25[SUN]

開館時間▶午前9時～午後5時 毎週月曜休館
 入館は午後4時30分まで。 9月24日(月・振休)、10月8日(月・祝)は開館し、翌火曜日休館。
 10月10日(水)は21:00まで開館延長!! 岡フィルのミニコンサート(18:30～19:30)もあります。
 入館料▶当日:一般1,000円(前売800円)、満65歳以上/高大生800円(前売600円)、小中生500円
 ※20名以上の団体は各200円引。その他割引は当館へお問い合わせください。
 ※障害者手帳をお持ちの方とその付き添いの方1名は無料。
 前売り券は、当館受付、当館周辺ギャラリー、岡山市内主要プレイガイド、コンビニ店頭等で求めください。
 セブンチケット(<http://7ticket.jp>) ローソンチケット Lコード 61832 チケットぴあ Pコード769-261
 前売券の販売は9/21までです。コンビニだけのお得な前売りペアチケット(一般2名で1,400円)もあります!

主催▶岡山市立オリент美術館、RSK山陽放送、国立民族学博物館、千里文化財団 企画制作▶国立民族学博物館
 後援▶岡山県、岡山県教育委員会、岡山市、岡山市連合町内会、岡山市連合婦人会、岡山市PTA協議会、公益社団法人岡山県文化連盟、
 岡山オリент協会、岡山市立オリент美術館友の会、山陽新聞社、朝日新聞岡山総局、読売新聞岡山支局、毎日新聞岡山支局、
 中国新聞備後本社

特別協賛▶  **ドルフィン・メイトこども園**
 Dolphin-Mate Kodomoen



ドルフィン・メイトこども園プレゼンツ

国立民族学博物館「JCOM」

ビーズ

BEADS IN THE WORLD



イス(神像付き) パパアニューギニア

「なまじり」をみる

ビーズとは、「さまざまな部材をつなげたもの」です。人類は、石や金属、ガラス、骨や歯、貝やサンゴ、魚のうろこや虫、植物の実、あらゆるものに穴を開け、紐で繋いだビーズに親しんできました。身近な手芸であるビーズを人類が作り始めたのは、およそ10万年も前の事です。

本展は国立民族学博物館が所蔵する膨大な資料から厳選したビーズ資料を中心に展覧し、ビーズの始まりから現代までの世界のビーズ文化を一堂に紹介します。

世界中のビーズ作品のさまざまなデザインやアイデアをお楽しみいただきながら、なぜ人はビーズを作り、使い続けたのか、シンプルだけれども奥深いビーズの世界に、もう一步踏み込んでみましょう。

Okayama Orient Museum 岡山市立オリент美術館

〒700-0814 岡山市北区天神町9-31 Tel.086-232-3636



JR岡山駅東口より路面電車「東山」行きで約5分、「城下」下車、左手すぐ。JR岡山駅東口より徒歩15分。

*当館には来館者用駐車場はありませんが、市営天神町駐車場をご利用の場合、当館受付にて割引券(1台1回につき100円)を交付します。

あざやかなさまざまなビーズ

旅するビーズ



ビールのうんたー プラシル



サルの歯!!! プラシル



トリの羽根のビーズ! プラシル



爪切りや葉ひんもビーズにしちゃうー ポツワナ

ビーズだけ?!



ヨーロッパで作られ アフリカに運ばれたガラスビーズ カメルーン



たくさんビーズは富の象徴。 デンカのコレセット 南スーダン



世界最大級のビーズ作品! 一・五メートルの人物 ナイジェリア

世界のビーズ講座

13:30~16:00 ※終了時間は前後する場合がございます。オリент美術館地下講堂 聴講料500円(友の会会員は300円) 要申込み(定員50名)

9月29日(土) 装身具から見た社会—南アジアのカーネリアン・ロードを巡って

遠藤 仁さん 人間文化研究機構/秋田大学研究員



紅玉髓のビーズ

有史以前から人類は珍しく希少な石を嗜好し、ビーズやペンダントとして身につけてきました。中でも半透明で赤く輝く紅玉髓とよばれる石は、時代、地域を問わず広く人類を魅了しています。紅玉髓は世界各地にあります。その中でも数千年にわたって採掘、ビーズ加工が続けられている南アジアの事例を過去・現在に跨って紹介します。

10月27日(土) 人間にとってビーズとは何か? 一つなく・かざる・みせる

池谷和信さん 国立民族学博物館教授



ナイジェリアのビーズ職人

10万年前頃から世界中で親しまれているビーズ。その人とのかわりは「一つなく」「かざる」「みせる」の三つに大別されます。ビーズの素材やかざり方は、文化や自然環境によってさまざま、諸民族のあいだでは、儀礼に使い、社会的地位や民族のアイデンティティを示すなど、大きな役割を果たしてきました。地球に暮らす人びとの多様な営みを、ビーズをとおして探ってみましょう。



仮面(ソウ) カメルーン

●体験イベントも計画中です。詳細が決まり次第、オリент美術館ウェブサイト、ブログ、FBページでお知らせします。